学校評価計画表

奈良県立畝傍高等学校 (定時制)

教	育	目			。 日本国憲法・教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人権の尊重を基底とした民主的な社会の形成者としての必要な資質を養い、豊かな文化の 創造に寄与する心身ともにたくましい生徒の育成をめざす。												総合評	価									
運営方針					印・徳・体の調						く活力	ある生徒を	を育成する	5.													
平成28年度の成	果と課題				本 年	度	1		5	B	標			体			的			B			標				
	度を設け、三修制に	よって3年	生4名が卒業	۔ ال								〇基本的	な生活習	慣の確立	を図る。												
	っに多くの生徒の学				つ規範意識(の同上を	図る。				-			マナーを		た生徒を	育成する										
		三年間で卒業できるように取り組ませたい。										課題の把				0											
八师王工尺は		2007(-407	7/1125 2721 8		○自他を尊	重する心の	の育成を	図る。			-							4 7									
○生徒の日々の	の生活実態を把握し	済細かせ	5揺を行い 1	Ħ.						い、信頼し																	
	や基本的生活習慣				()長機・長本())正常と供及在学())手提を以る						に付けさせ			授業を作	ヷ 。												
	で基本的生品首順	が惟立を日	11日9 以租仓市		· · · · · · · · · · · · · · · ·			〇将来を	見通した	進路希望(の実現に	努める。															
続したい。					つ # 🖶 🗅	次所し北	送上の亡	L + 1507 7				〇授業公	開や研修	会などを	積極的に	行い、自	ら指導方	法の改善に	こ努める。								
			○教職員の資質と指導力の向上を図る。				○常に研鑚に努め、自ら資質の向上を図る。																				
	具 体	的	目	標具	具 体 的	〕 方 🤋	策 •	評価	指標	自己評			果	٤	課		改	善	方	策	等	学を	交易	手 係	者	評	価
	観点別評価を利用 について研修を深		と評価の一体	·1C	多様な生活。 適切で柔軟な とで、指導の	な観点別	評価の視			-																	
	生徒が主体的に学習	冒に取り組む	体制を確立する		高認試験の科 動の単位認定					i																	
生徒指導部	基本的生活習慣の研	産立を目指す	•		遅刻・早退届記 第連絡のない:																						
	規範意識の向上を目 学校づくりを目指す。		安心して学べる		校門での立覧 授業中の携帯																						
	生徒の情報を全職員速に対応できるように		様々な事態に迅		タ礼、会議等で る体制を整える		青報を共有	し、迅速に対	対応でき																		
進路指導部	一人ひとりが自らの適性について気づき将来の 望の実現に向けて前向きに学習する態度を養う			ď	進路について (の情報を集	集めて積極	的に考えて	こみる。																		
				自らの適性に	ついて考え	る機会を	もたせてみる	る。																			
				戛	夏休みを利用	して進路先	もの見学に	参加し知識	をもつ。																		
	幅広い情報の中から、多様な価値観を理解させ 自分や他人の人権をお互いに尊重できる実践力 を身につける。		L	コミュニケーシ ノ、明るいなか			の違いを正	Eしく理解	!																		
				人権講演会や の体験に基づ				え、自ら																			
				毎	毎学期、職員(こよる人権	教育研修	を実施する	0																		
	体育的行事を行い、	生徒間の交流	流を深める。	Z	スポーツ行事で	を年2回実力	施する。																				
	自らの身体の健康について理解させ、健康の保			Z	スポーツテスト る。	を実施し、	各自の運	動能力を自	覚させ																		
	持増進を図る能力を	育成する。		ります	身体測定や健 兄や健康状態 する。	を把握させ	せ、健康など	生活を行う。	よう指導																		
一学年	基本的な生活習慣を をもたせる。	確立し、高村	交生としての自!	す	呆護者との連 す。																						
	挨拶や礼儀・マナーの向上を図る。		淖	様々な場面で挨拶や礼儀・マナーについて具体的に指導し、不十分であった場合にはその場で指導する。																							
	生徒が教員に相談し に努める。	たり、話しや	すい環境づくり	, "	∃頃から積極 ミュニケーショ: ことなく、対応 [*]	ンを図り、5 できるように	生徒の些糾 にする。	田な変化を見	見落とす																		
二学年	自らの進路について	、意識づけを	を行う。	摂	HR活動や個人 是供し、進路選 えられるように	選択の重要																					
	学校生活での規範意	意識の向上を	図る。		SHRや授業での る態度の指導		の徹底や	挨拶など授	業を受け	+																	

	具 体 的 目 標	具体的方策・評価指標	自己評価	結果	成果	٤	課	題改	善善善	方	策	等学	交 関	係者	計 評 価
	規範意識を高める。	卒業年次に向けて必要な生活態度・礼儀やマナーとと もに、責任ある言動を身に付けさせる。													
三学年	確かな学力を身につけさせる。	学び方を指導する。表現力を高めさせる。													
	進路について、方向性を確立させる。	具体的な情報を提供し、考えさせたり、選択させる。													
四学年	最後の高校生活の充実と、進路の実現を図る。	社会人として必要な生活態度・礼儀やマナーとともに、 最上級生として責任ある言動を身に付けさせる。													
		進路情報伝達や進路相談を行い、生徒の主体的な進路実現ができるよう指導する。													
国語科	漢字の習得に対しての関心を高め興味をもたせる。	自分の考えを文章を書いて上手に表現してみる。													
当品行	コミュニケーションを図り意見の交流を大切にす る。	理解してわかることのおもしろさを感じて自ら取り組む。													
	生徒にとって身近なことから、興味や関心をもたせる。	各種メディアの資料、視聴覚教材の積極的活用を図 る。													
地理歴史科	時代や国々による相違点を認識させる。	美術・文学・音楽等の教材を取り入れ、文化的教養を 高めることを目指す。													
	歴史認識を基礎に幅広い知識を身につけさせる。	考えや思いを文章化できるようになることを目指す。高 卒認定制度の受験対策を併せて実施する。													
	生徒が授業に興味・関心を持つように、時事問題 を適時取り入れ活用する。	最新のニュースや統計、情報などに注目し、授業に活用が可能な話題を積極的に取り入れる。													
公民科	基礎的知識の習得を図るため、教材や資料を精選する。	都道府県の位置や県庁所在地など、基礎的な知識の 定着を図る。プリント教材等の活用を積極的に取り入 れる。													
	現代社会の問題や課題を、主体的に学ぶ視点を養う。	討論や意見交換などを通じて、自ら問題に対応する力を身につける。													
数学科	基礎的な技能の習得を図る。	かなり基礎的な内容から説明する。													
数于符	金板印はX能の自分で図る。	自らの手で問題を解く習慣をつける。													
理科	基礎・基本的な内容の習得を図る。	ノートの取り方の指導や振り返り学習を重点的に行う。													
AE 14	科学への興味・関心を引き出し、科学的な思考力 を養う。	に適宜取り入れる。													
保健体育科 -	授業を通して集団の一員であることを理解させる。	集合・整列等の集団行動を実施し、迅速な行動を身につけさせる。													
水庭作 自17	運動をすることで楽しさや喜びを味わうとともに、 出来た時の達成感を体験させる。	主として球技種目を実施し、生涯に渡って運動を続けていける力を身につけさせる。													
芸術科	書の基礎的な表現力を養う。	古名蹟を手本にして習わせる。													
(書道科)	書を通して自己を表現する。	漢字仮名交じりの書を書かせる。													
		基本的な表現力を定着させる。 表現活動を取り入れ、生徒が興味をもって学習できる													
英語科	的に参加できる楽しい授業を工夫する。 学習内容の基礎・基本を定着させる。	授業形態をつくりだす。 復習に力をおき、学習内容を確実に定着させ積み上げ													
	ナエル	ていくようにする。 食育を中心に家族、保育の重要性を認識させ、賢い消 悪者としての実践れた息につけさせる。													
家庭科	せ、人との関わりの中で、生活者としての自覚と責任のある人間を育てる。	費者としての実践力を身につけさせる。 特に、主体的な消費、行動、消費者の権利と責任、資源、環境など、ライフスタイルを考える力を育てる。													
情報科	情報社会に適切に参画できる能力・態度を育 てるとともに、情報機器を効果的に活用でき る力を身につけさせる。	情報に関する倫理的態度と安全に配慮する態度を養う。 情報機器を活用して、効果的なコミュニケーションを行るのよれま差る													
商業科	ビジネス活動で必要な知識や技能を習得させ、社	う能力を養う。 基礎・基本を重視し、問題演習をとおして知識の定着を 図る。													
回未行	会人として必要な素養の涵養を図る。	ビジネス活動を計数的側面から理解させる。													